

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	11.20(土)	浜中央	発言者A	<p>教育長の冒頭あいさつにもあったが、児童生徒数がピーク時の半数に減少しているという説明があった。少子化が原因なのであれば、それは行政の不作为によるものではないか。それを市民に押し付ける形で、適正規模・適正配置の取組を実施することは一方的なやり方であると思うが、いかがか。</p>	<p>少子化の進行において、行政が為すべきことは多数ある。例えば、企業誘致により、圏域の経済力を高めること、また教育・子育て環境を整備していくということも必要。</p> <p>この間、市長部局も、教育委員会も取組を進めてきたところだが、至らぬ点があった部分については、お詫び申し上げます。</p> <p>一方、人口減少は全国的な課題であり、人口維持には2.03が必要とされる合計特殊出生率が非常に減少しており、1.3～1.4という状況である。亡くなられる方がいる一方で生まれてくる方が少ない中、地域で努力をしても、日本全体の人口において自然減が進んでくる。行政の責任による点もあり、努力していく必要があるが、そういった大きな流れがある。</p> <p>行政でできることは、社会減から社会増につなげるということで、経済活性化、住環境整備、教育・保育の充実が主となってくる。</p> <p>市において社会減の要因を探ったところ、30代の子育て世代を中心に市外への転出がみられた。社会減を減らし、社会増へつなげていくためには、教育・保育環境の充実が必要であると考えている。</p> <p>今回の取組についても賛否があると思うが、我々がすべきことは、待機児童・未入所児童をなくしていくことにより、子育て世代が安心して子育てできる環境をつくるため、別に幼保再編の取組を進めている。</p> <p>もう一点が今回の適正規模・適正配置の取組である。小規模化に伴う様々な課題があり、学校自身での解決は困難なため、枠組み自体を新しいものに変えていく必要があるということで取組を進めている。</p> <p>これらの取組は、子どもたちを安心して保育できる、教育としてしっかり受け止められる体制を築く上で必要不可欠であると考えている。</p>
2	11.20(土)	浜中央	発言者A	<p>岸和田市における児童生徒数の減少理由は、少子化だけでなく、学力による問題もあると考える。毎年実施される全国学力テストにおいて、大阪府が全国ワースト1であり、その中で岸和田市はワースト1に近いと聞いている。</p> <p>就学時期が近づくと、近隣市町へ転出する世帯もあると聞いている。よって、適正規模・適正配置の取組を実施する前に、学力向上を図ることが先決だと考えるが、いかがか。</p>	<p>岸和田市における、全国学力テストの結果をみると、全国の正答率を100とした場合、教科や学年にもよるが、10～15ポイント低いという、非常に厳しい実態がある。</p> <p>この間、教員自らが、子どもたちが興味関心を持ち、しっかりと理解できる授業を行うための力量をつけるよう、授業改善の取組、教育の送り手側からの取組を進めてきた。</p> <p>しかしながら、なかなか効果が表れなかったため、今年度より、子どもたちがしっかりと教員の授業を聞き取り、吸収する力をつけられるよう、「コグトレ(Cognitive Training)」という取組を市内の幼稚園、小・中学校で新たにモデル導入した。</p> <p>「同じ図形を探そう」「図形の違うところをみつけよう」「線と線をつないで図形しよう」といった、基本的な認知機能を高めることにより、子どもたちが学習を吸収していく基本的な力をつけていこうという取組である。効果が表れれば、来年度以降はさらに対象校を拡大し、市内全域に拡げていくことを考えている。</p> <p>これまで取組が不十分で、全国学力テストの結果が芳しくないことについてはお詫び申し上げます。今後も学力向上について努めていく。</p> <p>また、学力向上は学校だけではできない。地域の皆様のお支えが必要であり、最重要点として、家庭の教育力を高めていくことが必要だと考えており、家庭・学校間での連携、家庭への協力をお願いがどういった形で可能なのか、という点について研究を進めている。方針が定まれば、順次実施していきたい。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
3	11.20(土)	浜中央	発言者A	適正規模・適正配置の取組をやむを得なく実施する場合には、その地域の状況、歴史を鑑み、地域住民と十分に話し合い、行政の一方向的な押し付けではなく、地域住民との合意を以って行う用意があるか伺いたい。	この計画（案）は、あくまでも「案」である。今後、地域や保護者の皆様と、十分に議論を尽くし、その上で、市長とともに最終案をまとめ、議会での審議に臨んでいきたい。今回の説明会を実施して、それで終わりだということは一切考えていない。様々なご意見を伺い、より良い案を作っていきたいと考えている。
4	11.20(土)	浜中央	発言者A	京都市は財政破綻に近いと報道されているが、教育に対するレベルを高めていくと京都市長が述べていた。 教育、子どもというものは市の宝であるため、教育は最も大切なものだと考える。京都市を見習い、岸和田市の教育レベルを高めるために頑張してほしい。	予算編成については、教育委員会だけで実施することができない。予算編成権は市長にあるが、今回の取組を進めるにあたって生じる改革効果については、子育て・教育分野に優先的に投資することを市長と約束できているため、しっかりと取り組んでいく。
5	11.20(土)	浜中央	発言者B	小中一貫教育推進会議はどういったメンバーで構成されているのか。地域の方や、現場の教員の意見もくみ上げられるような会議になっているのか。 また、今後意見を聞いて検討するということが、「推進会議」という名前は進めるための会議であって、検討するための会議でないのではないか。検討するための会議であれば、我々の意見も聞いてもらえるのでは、と思うが。	まず、小中一貫教育を推進していく会議であって、小中一貫校をつくっていくという会議ではないということをご理解願いたい。 これまで、小中連携教育というものは、従来から各学校において取り組んできており、例えば岸城中学校の教員が中央・浜小学校の児童へ授業をしたり、集会へ参加したり、ということを実施してきた。どの校区においても小中連携は実施してきたところ。 従来の小中連携教育から、より一層発展する形で「めざす子ども像」を中学校区で一つ定めようというのが、小中一貫教育と考えている。 小中一貫教育が小・中学校において大切であり、そういった教育内容を推進していく、というのが小中一貫教育推進会議となっている。 メンバーは、教育委員会事務局、小・中学校の校長代表、教頭代表、教職員代表が入っており、例えば小・中学校において、同じ生徒指導目標を定めることができるかどうか、といったものを検討している。

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
6	11.20(土)	浜中央	発言者B	<p>人口流出の話があったが、先ほども話があったように、保育所と幼稚園を統合するか、市立の幼稚園・保育所を減らしていくということで、広い範囲から保育所や幼稚園に通うことになるような計画を出しているところ、保護者からみれば通う負担が大きくなる。今ならば自宅から近いところで保育所があって通いやすい。</p> <p>以前、岸和田市内で保育所がたくさんできたときに、それを魅力に思って人口が増えた。保育行政の充実が人口増加の要因になり得る。そういう点も含めて、子どもを守っていく、働く人たちを大切にしていく市政を願っているが、現在のやり方は逆方向に向かっているのではないか。</p> <p>これは幼稚園・保育所再編に係る説明会が別にあるので、そこで聞きたいと思っているが、そういう風に考えている。</p>	<p>幼稚園・保育所の話であったが、小学校の統合にも関わる話なので、説明させていただきたい。</p> <p>保育所・幼稚園の再編に係る取組について、待機児童・未入所児童が年間300人いるという現状を解消しなければ、子どもを預けられないという保護者の大きな不満があり、それが子育て世代転出の大きな要因となっているため、まず今回の再編及び民間園誘致を以て、待機児童・未入所児童の解消を図ることが主眼である。</p> <p>身近にある幼稚園・保育所が統合されるということにもなり得る。ただ、幼稚園の実態について説明すると、5年間にわたり定員を半分に縮小したにも関わらず、今年度申込者数では、縮小した定員からさらに3割の空きが生じている状況。</p> <p>保育所は待機児童が生じている一方、幼稚園には空きが生じているアンバランスな状況となっている中、新たに保育所・幼稚園の良いところを取り入れ、認定こども園に一体化することで、保育所の子もたちにも幼児教育を受けてもらう、というように再編を進めていくところ。</p> <p>この取組により、身近な施設が統合され、通園距離が長くなる、また小・中学校適正化の取組により、学校が遠くなる、といったことは生じる。その点は、現状の課題解決とどちらを優先するかという、選択の問題になってくる。</p> <p>現状放置できない課題をまず優先して解決する、その上で生じる課題について、確かに負担は増えるが、それが受忍限度を超えているのかどうか。これを議論し、判断していただくほかない。</p> <p>課題や弊害をなくすため、例えば幼稚園は基本的に保護者送迎だが、小学校の距離が遠くなる点について、他校区とのバランスを踏まえる必要はあるが、国が示す「小学生は4km以内、中学生は6km以内」という通学基準を一概に適用するのではなく、児童生徒の負担があまりにも増大する場合は、教育委員会の責任としてスクールバスの導入が必要だと考えており、保護者負担なし、市費で導入する。</p>
7	11.20(土)	浜中央	発言者A	<p>幼稚園が定員に満たない旨説明があったが、その理由はどう考えているのか。</p> <p>浜小学校に隣接している浜幼稚園においても、給食が出ない、小学校から持っていくことができない、屋根がないので運べない、これを受け、幼稚園には行かせない、という声も多い。</p> <p>安易に認定こども園をつくる、ということではなしに、そういう課題を改善し、まず幼稚園の入園者を増やすことを考えなければならないのでは。</p> <p>先ほど選択云々の話があったが、市も負担して選択する必要があるのではないか。</p>	<p>幼稚園給食については議会でも審議をいただき、議員からも要望を受けているところ。現状、様々な立地環境があり、例えば運搬にあたり外を通る必要がある場合に、衛生面をどう確保していくのか、また小学校で自校調理をしているが、現状に加えて幼稚園給食をつくるとなればボリュームが増える中、施設上不十分な点等があるため、導入に踏み切れていない状況にある。</p> <p>また3歳児保育を実施している幼稚園においては、園児の誤嚥リスクがあるため、細かく調理することが必要であり、また使用食材も気を付ける必要があるなど、小学生の給食とは異なる調理・メニューが必要という課題がある。</p> <p>加えて、岸城幼稚園のように、小学校併設でない独立園もある中、併設園を優先し、独立園を放置してよいのか、という課題もあり、悩ましい状況にあるが、現在も議論を重ねている。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
8	11.20(土)	浜中央	発言者A	<p>適正化に向けた基本的な考え方として、（仮称）学校開校準備委員会の設置とあるが、この委員会は浜校区から何名、中央校区から何名、という形になるのか。どのようなメンバー構成を検討しているのか。</p> <p>校区としても態勢を整えておく必要があるので、聞いておきたい。</p>	<p>（仮称）学校開校準備委員会について、立ち上げスケジュールから説明させていただく。</p> <p>現在は第1期計画として計画（案）を示しているところ。浜・中央校区においても小規模化が進行しているため、第2期計画において、たたき台としての計画（案）を示すつもりだが、仮に2期計画の案を示した際は、今回のように説明会を実施するなど、ご意見を伺うことになる。その中で、地域の皆様と十分に話し合い、課題解決を図りながら、地域の皆様による一定の合意を得られる段階になって、初めて準備委員会を立ち上げるという流れになる。</p> <p>その際に、地域の学校が対象となっている場合、当該地域の皆様に、準備委員会に参画していただくことを考えている。どういったメンバー構成が望ましいのかは校区によっても異なると思うが、例えばPTAの代表、町会長や市民協代表といった地域代表、学校長といったメンバーの選出についても、地域の皆様と十分に話し合い、決定していきたい。</p>
9	11.20(土)	浜中央	発言者C	<p>幼稚園について、23園のうち10園だけが3歳児保育を実施しており、残る13園では実施されていないため、定員を下回る状況なのは当然だと思う。</p> <p>幼稚園の小規模化を人口減少だけのせいにするのではなく、やるべきことがあるのではないか。</p> <p>給食に関しては隣接する貝塚市が既に小学校で作った給食を幼稚園に届ける取組を実施している。このこともみてほしいと思う。保護者からの要望も多い。</p> <p>岸和田市でも天神山幼稚園は小学校の中に設置されているため、給食が実施されている。関係者いわく、良いことづくめだという。幼稚園の小規模化を挙げるなら、天神山のように小学校の中に設置することにならないのか。</p> <p>どちらかを選択、というのであれば、市で努力し選択肢を作るべき。市民に押し付けるのはいかがなものか。</p> <p>天神山の幼小一貫教育が良いものであれば、全校で取り入れれば幼稚園小規模化の問題も起こらず、2クラス確保できるのでは。</p>	<p>貝塚市が給食を一部制限の上、導入していることは承知している。3歳児は未対応、アレルギーも未対応ということであるが、岸和田市としては導入する以上、アレルギー対応もしっかりと取っていききたい。また3歳児にも対応していききたい、そのためにどうすればよいかを検討しているため、貝塚市が始めたからすぐに岸和田市も導入するということではなく、しっかりと議論・検討を進めていきたい。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
10	11.20(土)	浜中央	発言者C	<p>この問題はコロナ禍以前に出たものだと思うが、コロナ禍で延期が続いている間に状況も変わった。子どもたちはコロナ禍で大変辛い思いをしている。学校に行けばテストばかり、学校が嫌だ、という不登校児童生徒が大阪でも全国でも増えている。</p> <p>また今はタブレットが全児童生徒に配布されたが、Web環境のあるなしで取組も異なるし、シングルマザーの家庭ではスマホを子ども専用にはできないといった声もある。もっと選択肢を拡げて、市民に実態のことを知らせてほしい。</p> <p>コロナ禍では分散登校が実施されたが、その間には不登校だった児童生徒も通学できていた。教員の目がいき届いてよかった、ということだったが、その後はまた40人学級に戻り、現在40人を超える学級が市内に60も存在する。こういうことも言うべき。</p> <p>国もコロナ禍で密になることを避けようと35人学級を決定した。岸和田独自の少人数数学級を進めるなら賛成するが、行政側の努力をせず、家庭の問題、子どもの問題、教員の問題と言っていないか。</p> <p>少人数学級にすれば学年2クラスの学校も出てくる。小規模化の課題も解決できる。高いお金をかけて小中一貫校、小中一貫教育を推進しなくてもいい。今も現場の教員は頑張っている中、中学校の教員が小学校まで行く、としているのもいかがなものか。</p>	<p>学校が一斉に休校になるということは、少なくともこの60年間で初めての経験であった。現在は皆様の努力により、コロナウイルスの感染は一定鎮静化したが、今後再拡大する恐れもある。これからは感染対策には留意する必要があるが、こうした状況が未来永劫続くことを前提に社会構造を変えてしまうことについては疑問を持っている。</p> <p>学級規模を小規模化することについても、国が責任を持って全国一律に実施するべきであり、財政面で有利な自治体は教員を加配して30人、25人というように学級規模を小さくしていく一方、財政面で厳しい自治体はそれができない、ということが公教育上望ましいのか。それは地域間格差を生むであろうことから、国が基準を設定し、手当てをしていく必要がある。</p> <p>よって、市単独での少人数学級導入はすべきではないと考えている。</p> <p>小中一貫教育において教員負担が増える、という懸念について、教員の働き方改革が必要とされる中、様々な労働面での課題を軽減していかなければならないと考えている。ただ、教育上やるべきことを削るというわけにはいかないの、その分、教員の労働の中で無駄・無理を強いられていないかという点はしっかり点検をする一方で、小中一貫教育についてはしっかり取り組んでいただきたいと考えており、理解を求めています。</p>
11	11.20(土)	浜中央	発言者C	<p>学校の統廃合により、現在の校区がなくなり、祭も町別ではできない。校区がなくなるということは、これまでよりさらにコミュニケーションが取りにくくなる。子どもたちも遠い学校へバスでの通学が必要、歩いて友だちと遊べない、という懸念がある。</p>	<p>学校は教育の場だけでなく、地域コミュニティの核として機能し、地域の皆様に支えていただけてきたものだということは十分に認識している。</p> <p>一方、教育は非常に疲弊している。物事は放置して解決するものもあれば、放置すれば悪化するものもある。学校規模の小規模化は放置すれば悪化する一方である課題と考えていることから、手当てをさせていただきたい。</p> <p>その上で、地域に及ぼす影響については、例えば跡地をどう活用するのかという点について、教育委員会が無関係だというつもりはまったくない。これは市長部局とともに、地域の皆様と一生懸命考えて、望ましい方策を検討していく。</p>
12	11.20(土)	浜中央	発言者C	<p>学校を統廃合する、また公立保育所と幼稚園をゼロにして、たった6つの認定こども園にすることや、公共施設、スポーツ施設、プールもなくなるとなれば、これまでは伝統のあるだんじり祭があって、頑張ろうとしていた岸和田市がぐちゃぐちゃになってしまう。</p> <p>教育長は1～2年で去るだろうが、我々はずっとここに住む必要があるという想いである。</p>	<p>確かに、社会教育施設、社会体育施設についても、これから基本方針を定めたものについて、地域の皆様との議論をスタートしたいと考えている。</p> <p>しかしながら、仰るような、施設をすべてなくしていくという乱暴なことは、基本方針に記していない。</p> <p>現状、非常に老朽化しており、財源も限られる中で、今のままの状況で安全を確保し、良好な環境で提供していくことが難しくなっているため、どうすればよいか、お知恵を借りながら一緒に方向性を考えていきたい、というものである。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
13	11.20(土)	浜中央	発言者D	<p>自分は児童生徒数がピーク時の年代だと思う。</p> <p>比較的児童数が多い校区から浜校区に移ってきたのだが、浜小学校は全学年単学級、その中で1～6年生がほぼ顔を知っている。その中で、1つの学校で12クラスになることが「適正」なのかどうか、誰が適正だと言っているのか。やろうとしていることが適正だと言うが、自分が育ってきた大規模な環境と、今小規模な学校で過ごす子どもを見たときに、自分の子どもは浜小学校でよかったな、と思う。</p> <p>それが中央小学校と一緒にになったら何が適正なのか。それが子どもたちにとって本当に良いのかどうか。この点、説明を受けても納得できない。</p>	<p>教育委員会としては、義務教育9年間において、全学年単学級、クラス替えができない状態であることは、人間関係の固定化等、教育上の諸課題があると考えている。</p> <p>どの程度の学校規模が望ましいのか、という点については、国において学識経験者も交えての審議を経て手引きを策定しており、その中では、多様な考えに触れること、学習面での多様な活動等を考えた際に、学校あたり12～18学級が望ましい、ということも明記している。</p> <p>市においても、国の考え方を参照するだけでなく、基本方針を定めるにあたり、学識経験者、PTA代表、民児協代表といった方々に参画いただき、審議会を設置した。その中で議論を経た上でも、学校あたり12～18学級が望ましいという答申をいただいた。</p> <p>また、基本方針策定前に、各校の教職員、保護者、児童生徒を対象にアンケート調査を実施し、その結果によれば、やはり12～18学級程度が人間関係や教育上のことも含めて望ましいとした回答が多数であった。</p> <p>それらを総合的に鑑み、適正規模の基本的な考え方を取りまとめ、基本方針を策定した。</p> <p>小規模校は小規模によるメリットが存在することは認識している。一方、子どもたちが将来、小・中学校、高校・大学、そしてグローバル化する社会に出ていく中で、たくましく生き抜く力を育むためには、小・中学校のうちから一定の集団規模を確保していくことが必要だと考えている。</p>
14	11.20(土)	浜中央	発言者D	<p>丘陵地区の開発を進めているが、あの中に「住居地域」を設けていると思う。行政が進めているのかどうかはわからないが。</p> <p>住居地域を設定したにもかかわらず、当該地域の小・中学校を減らすということに納得がいかない。</p>	<p>様々な経緯を経て、丘陵地区のまちづくりが整いつつあり、企業誘致や、住居エリアの整備といったまちづくりが進んでいるところ。</p> <p>丘陵地区周辺の小・中学校は、以前から小規模化が非常に進行している学校であり、義務教育9年間を通じて、クラス替えのない全学年単学級という状況。それによる良い面もあるが、課題の方が多いと考えている。</p> <p>まちづくりを進めながらも、より良い教育環境の整備、学校教育の充実を第一に考えた際に、小規模であり続ける学校に対して何の手立てもしなくてよいのか、ということを考え、責任を持って公教育を実施する立場として、学校再編ということを提示した。</p> <p>一方、丘陵地区において住居整備が進む中、一時期は児童生徒数が増加することも想定しているが、その時期を過ぎると、再び減少となり、また全学年単学級となることを見込んでいる。推計等を確認した上で、現段階の判断としては、適正化が必要と考えている。</p>
15	11.20(土)	浜中央	発言者E	<p>自治体間の均衡を崩すとして、自治体独自での少人数学級に否定的な発言を聞いて、怒りを感じる。</p> <p>大阪市内では塾代助成を実施しており、正しいかどうかは別として、税金を投入している。</p> <p>岸和田市における子どもの学力低下を課題と認識する中で、レベルを他の自治体と同じ程度まで高めることが教育委員会の責務だと思う。その方策として、特認校に関する資料にも「少人数教育」と書いているのに、否定的な発言をすることに驚く。</p>	<p>学級編制については、自治体の財政力によって左右されることは公教育としておかしいことではないか、国がしっかりと対応すべき、という考えであり、教育委員会としても国による少人数学級を積極的に要望してきた。また今後も続けていく。</p> <p>一方で、家庭学習の環境に恵まれない子どもたちに対しては、岸和田市においても、放課後学習支援事業を実施しており、学ぶ機会を提供していくことは既に進めている。</p> <p>いただいたご意見については、ご意見として承る。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
16	11.20(土)	浜中央	発言者E	<p>予算云々は教育委員会の管轄ではないということだが、スクールバスの導入にも予算が必要ははず。</p> <p>葛城校区と山滝校区両方に走らせるということにしても、バスの本数等を確定させなければ予算面の答えは出せないと思うし、スクールバスの具体的導入を約束してからでなければ、学校統合はできない。</p>	<p>子どもたちの公教育に責任を持つ立場として、通学中の事故が全国各地で発生する中、安心安全を確保する対応についてはしっかりと実施していく。</p> <p>スクールバスの運行範囲・ルートについては、教育委員会が一方向的に定めるのではなく、地域や保護者の皆様と十分に話し合いながら、（仮称）学校開校準備委員会において決定していきたい。</p>
17	11.20(土)	浜中央	発言者E	<p>小中一貫教育基本方針の具体的な取組として、「新たな科」をスタートするとあるが、何か。</p> <p>教員が足りないと言いながら、新しい科目を作って子どもたちに詰め込んでいくという考えなのか。現状での教育をしっかりと実施してからすべき話だと思う。</p>	<p>現在も小・中学校において「総合的な学習の時間」を設けており、その中での取組は学校で計画を立てて、実施している。</p> <p>これを、小・中学校で一貫した内容で取り組んでいこうというものであり、国語・算数といった科目としての「新しい科」ではない。</p> <p>ただ、教員の負担にならないように、教育委員会で教材を作成する等のサポートに努めていく。</p> <p>内容については、小中一貫教育推進会議等で検討しているところ。</p>
18	11.20(土)	浜中央	発言者E	<p>クラブ云々という話があったが、例えば城内小学校でのソフトボールクラブはあちこちの小学校から人が集まって活動している。児童生徒数が少ない中でも、それぞれがしっかり取り組んでいる状況なので、統合していく必要はない。</p>	<p>部活動における課題については、小規模な中学校において、例えば野球がやりたいが野球部がない、といった意味であり、それは教員や児童生徒が少ないため設置できないことが主な理由である、という説明内容である。</p>